



やる気いっぱいの始業式

かがやく浜の子

平成27年9月

『言葉大切にし 言葉で伝える』

学校に子どもたちの元気な声が帰ってきました。1学期の終業式で子どもたちに伝えたことの一つ「健康で安全に 命を守って」を全員が守ることができたことに感謝と幸せを感じています。

2学期は『やる気いっぱい』の白羽小学校にする学期です。始業式で子どもたちには『言葉』と『言葉で伝える』ことについて以下の話をしました。

『やる気いっぱい』の2学期に向けて『言葉』について考えてみましょう。私が夏休みに読んだ本の中の一冊「あっ！命の授業」(ゴルゴ松本著)を紹介します。「日本は言霊の国です…言葉に魂が宿ってその力が森羅万象すべてのものを成り立たせているそれが言霊です。よいことをいったら、よいことが起こります。こうなりたいといったら何にでもなれます…」こう書いているゴルゴさんはお笑いだけでなく全国の中学校や高校、少年院に招かれ、子どもたちを前にお笑いではないいろいろな言葉の話をしています。言葉には、人をいやしたり、安心させたり、元気にさせる力があります。また、逆に人を傷つけたり、悲しませたりする力も持っています。同じ力があるのならばよい力として言葉を使いたいですね。

日本語の50音表の始めの言葉は『あ、い』です。愛は漢字にすると 愛 相 間 会 い 合 い … 様々な漢字になりますね。一番始めに思いつく音読みで『愛』という漢字は、4年生で学習する13画の漢字、部首はこころです。愛情の愛です。意味を表す訓読みでは愛には「おしむ」「いとし」「めでる」という意味があります。どれも『相手を大切に思う』という意味です。ゴルゴさんは、この「あい」という言葉で始まる日本語はすばらしいと書いています。1学期に『笑顔いっぱい』になった白羽小を『やる気いっぱい』にするために、授業でも生活でもこの『言葉』を大切に白羽小にしたい。がんばることはこの3つ

- ①『相手のことを大切に思う』言葉をたくさん使うこと
- ②自分の思いや考えを「言葉で」しっかり伝えること
- ③白羽小の伝統である「あさしおごはん」の挨拶をすること、

白羽小学校の子どもたちと先生方と、白羽小を創るすべての人の頑張りに、校長の私は大いに期待し、一緒に頑張ります。

(参考 廣済堂出版 「あっ！命の授業」 ゴルゴ松本著)

子どもたちに『言葉で伝える』実践をさせるにはまず、私たち教職員や保護者の皆様が、「言葉」について考え、自分の発する言葉を振り返ることが重要です。「子どもを変えるにはまず周りの大人から」を合い言葉に、『言葉で伝える』指導をしていきます。(校長 増田久美子)

